



宙そらをうつすうつわ

青南 宋の 磁そらの

Heavenly Blue : Southern Song Celadons

根津 創立 70 周年記念特別展 南宋の青磁そら 宙をうつすうつわ

2010年10月9日[土]~11月14日[日]

[休館日] 月曜日 ただし10月11日(月・祝)開館

昨年10月の新創開館から1年を経た今秋、根津美術館は財団創立70周年を記念する展覧会「南宋の青磁そら 宙をうつすうつわ」を2010年10月9日(土)から11月14日(日)まで開催します。

青磁は、鉄分を含んだ釉薬の還元焼成しょうせいにより、青緑色(または淡黄色)を呈する中国磁器です。なかでも、中国・南宋時代(1127-1279)に製作された青磁はもっとも美しく、それらが日本に輸出されたことは、博多から出土する陶片から知られています。端正な形や宙そらをおもわせる独特の色調は日本人に深く愛され、大切にされてきました。

さかのぼれば、昭和16年(1941)、開館まもない根津美術館が開催した「支那青磁展」は、青磁の美しさを日本に紹介した最初の展覧会でした。また当館は、青磁の優品を数多く所蔵する美術館でもあります。それからおよそ70年後に開催するこの本展は、青磁の美しさを改めて鑑賞いただくとともに、この間の日本における青磁研究の成果を示す展覧会でもあります。

砧青磁と呼ばれる龍泉窯の青磁をはじめ、南宋官窯の青磁や米色青磁と呼ばれる淡い黄茶色の作品に焦点をあて、日本に伝世した青磁作品を一堂に、国宝2件、重要文化財7件を含む、約70件で構成します。このうちの10件は、根津美術館が所蔵する作品です。会場となる展示室1では、国宝「青磁鳳凰耳瓶せいでいぼうおう 銘 萬聲」(和泉市久保惣記念美術館蔵)や国宝「青磁下蕪瓶せいじしもかぶらへい」(アルカンシエール美術財団蔵)、根津美術館が所蔵する重要文化財「青磁筒形花生せいじつつがたはなけ 銘 大内筒」、重要文化財「青磁輪花碗せいじりんかわん」(東京国立博物館蔵)などの名品がその美を競います。さらに、展示室2では、博多、鎌倉、京都、東京などの都市遺跡から出土した南宋青磁の陶片群を展示し、日本に将来された青磁の足跡をご覧ください。

展示室1・2



国宝 青磁鳳凰耳瓶 銘 萬聲 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀
高さ 30.8cm 和泉市久保惣記念美術館蔵

頸の左右に鳳凰をかたどった耳が付く、花瓶のなかでも王者の気品を備えた名作です。青く澄んだ釉色により「砧青磁」とよばれ、これはその代表的な作品としても知られています。銘の「萬聲」は、後西天皇（1637-85）の勅銘で、「擣月千聲又萬聲」の詩句に由来しています。



国宝 青磁下蕪形瓶 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀 高さ 23.5cm
アルカンシエール美術財団蔵

直線的な口縁と丸くふっくらした胴部が蕪のような形がこの名称の由来です。力強さと柔らかさを見せる瓶で、昭和初期から南宋官窯の製品ではないかといわれ、青磁の優品として知られています。



重要文化財 青磁筍形瓶 龍泉窯 南宋時代 13世紀 高さ 29.6 cm 根津美術館蔵

「筍」とは、頸から胴にかけて数条めぐらされた凸帯に、筍を連想して付けられた器形の名称です。この瓶は、バランスのとれた美しい姿と青磁釉の色調から、類品の中でも最も優れた作品とされています。江戸時代には徳川家綱（1641-80）が所持し、老中堀田正俊が拝領して以来、佐倉堀田家に伝わりました。



重要文化財 青磁筒形瓶 銘 大内筒 龍泉窯 中国・南宋時代 13世紀
高さ 18.3cm 根津美術館蔵



重要文化財 青磁下蕪形瓶(米色青磁) 官窯 中国・南宋時代 13世紀
高さ 22.2cm 個人蔵



重要文化財 青磁輪花鉢 官窯 中国・南宋時代 13世紀
径 26.1cm 東京国立博物館蔵

薄く作られた鉢には透明な青い釉が掛かっています。その釉には2重に入る貫入かんにゅうが全体に見られ、これが官窯青磁の特徴となります。口縁には金属の覆輪がまわり、柔らかな姿の鉢に引き締まった気分を与えています。



青磁袴腰香炉 龍泉窯
中国・南宋時代 13世紀
径 13.9cm 根津美術館蔵



重要文化財
青磁輪花碗 銘 馬蝗絆 龍泉窯
中国・南宋時代 13世紀
口径 14.5 cm 東京国立博物館蔵



京都市内遺跡出土陶片 中国・南宋時代 13世紀

京都の地下には平安京 1200 年の歴史が眠っています。近年の発掘調査では、舶来陶磁器のなかでも珍しい作品の陶片の出土が報告されており、中国北部の耀州窯青磁や、南宋時代の龍泉窯青磁でも珍しい器種がみられます。

◆南宋の青磁 特別講演会

講演会 1 鼎談「作家に聞く青磁の釉色の秘密」

青磁作品を造り続ける作家川瀬忍氏を迎え、青磁の釉葉、宙色そらの秘密に迫ります。

日時 10月30日(土) 午後2時から午後3時30分

講演 川瀬 忍氏(青磁作家)、佐藤サアラ氏(常盤山文庫 上席研究員)、西田宏子(根津美術館 副館長)

講演会 2 「南宋の青磁」

南宋青磁の魅力と謎について、陶磁史研究の今についてお話しをうかがいます。

日時 11月6日(土) 午後2時から午後3時30分

講演 今井 敦氏(東京国立博物館 学芸企画部博物館教育課長)

場所はいずれも根津美術館 講堂、定員 140 名

〈申し込み方法〉 往復はがきに、希望する「講演会 1」または「講演会 2」、住所、氏名(返信面にも)

電話番号を明記のうえ、

〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1 根津美術館「南宋の青磁 特別講演会」にお申込み下さい。

「講演会 1」は 2010 年 10 月 16 日(土)、「講演会 2」は 10 月 23 日(土) 締切(当日消印有効)

※参加希望者 1 名につき 1 枚の往復はがきでお申し込みください。応募者多数の場合は抽選となります。

※聴講は無料ですが、入館料をお支払いください。

◆ギャラリートーク 10月15日(金)、11月12日(金)

※いずれも午後 1 時 30 分より約 60 分間 イヤホンガイドを使って行います。

※当日先着 30 名様に限らせていただきます。

※午後 1 時よりホールにて整理券を配布します。

※入館料を別途お支払いください。

同時開催

展示室 5 「中国の画冊と画卷」



伝徐熙筆 秋荷図
(聴風楼集宋元画冊のうち)
中国・明時代 17世紀
根津美術館蔵

アルバムに自由に書画を貼りこむことができる画冊と、連続する画面を巻物に仕立てた画卷は、いずれも手にとって親しく絵画を鑑賞できる形式という点で共通します。明から清時代にかけて制作された山水、人物、花鳥など、さまざまな作品によって、その魅力に触れます。

展示室 6 「炉開きの茶」



茄子茶入 銘 志賀
中国・南宋～元時代
3世紀
根津美術館蔵

肌寒くなる11月、茶室では炉に火を入れ、その年に摘まれた新しい抹茶を使い、茶の湯の一年を始める茶会を行います。これを「炉開き」といい、唐物茄子茶入「志賀」や井戸茶碗銘「さかい」など、格の高い茶道具を用いて、茶の湯の正月を祝います。

ホール～展示室 3 「仏教彫刻の魅力」

仏教に深く心酔し、仏寺の建立までも計画した初代嘉一郎が蒐集した仏教美術作品には、優れた中国、朝鮮、日本の彫刻が含まれます。ガンダーラから中国、日本の作品15件を展示します。



不動明王立像
平安時代 12世紀
根津美術館蔵

展示室 4 「古代中国の青銅器」

当館のコレクションの一翼を担うのは、中国・河南省侯家荘出土の伝承をもつ殷時代の青銅器です。饗饗がくつきりとあらわされた尊や盃の名品20件をご覧ください。



重要美術品 饗饗文盃
中国・殷時代 前12-11世紀
根津美術館蔵

【開催概要】

- 【展覧会名】 創立70周年記念特別展「南宋の青磁 宙をうつすうつわ」
- 【開館期間】 2010年10月9日(土)～11月14日(日)
- 【開館時間】 午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]
- 【休館日】 毎週月曜日 ただし10月11日(月・祝)開館・展示替期間
- 【入館料金】 一般1200円(1000円) 学生1000円(800円)
* 20名以上の団体、身障者手帳提示者および同伴者1名は200円引き
* 小・中学生以下は無料
- 【前売券】 一般1100円 学生900円
* 8月21日(土)～9月26日(日)「コレクションを未来へ」展 開催期間中、美術館ミュージアムショップにて販売
- 【アクセス】 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車
A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、
B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
- 【住所】 〒107-0062 東京都港区南青山6丁目5番1号
- 【お問合せ】 TEL 03-3400-2536(代表) <http://www.nezu-muse.or.jp>

【展覧会リリース、広報画像はホームページからもダウンロードできます】

- 【リリースPDF】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/>
- 【広報画像ダウンロード】 <http://www.nezu-muse.or.jp/jp/press/download/>

＜リリース・広報のお問い合わせ＞

担当：鎌倉/朝倉/白原

TEL(学芸・広報/直) 03-3400-2538 / 携帯電話(鎌倉) 080-6622-2536

FAX 03-3400-2436 MAIL: press@nezu-muse.or.jp